

農作物生育・技術情報1号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稲生育状況（5月15日現在）

苗の生育は概ね平年並みですが、5月上旬の高温等により、若干徒長傾向なものが散見されます。

移植は例年並みに開始されていますが、移植後の低温に備えるため、目標葉数を確保（中苗→3.1葉以上）したら、昼夜ハウスを解放し、積極的に外気に慣らしましょう。移植2日前頃からはたっぷりかん水し、白根を出してから移植すると活着が良くなります。

育苗日数が長くなることが予想されるハウス（成苗、中苗とも、は種から移植までの日数が35日以上になる場合）では、老化苗対策として追肥を行ってください。

活着、分けつの善し悪しは水温に左右されます。下表の目標水温を参考に、水温の確保や最低水温を下回らないように止め水を基本に管理を行ってください。

時期	目標水温	水深	水管理の注意事項
移植直後～ 2日目	22～25℃ 最低15℃以上	通常2～3cm ※1	・移植直後は、速やかに入水して苗を落ち着かせる。 ・苗が埋没しないように注意する。
移植3日目 ～活着まで		通常3～4cm ※1	・2日目以降、晴天時は通常2～3cmの浅水管理にする。 ・止水管理で水温の上昇、確保を図る。
活着期～	23℃～25℃ 分けつ促進 昼間30℃ 夜間15℃	通常4～6cm ※1	・かんがい水は早朝に行うことを基本とし、日中は止水管理で水温を保つ。 （少しでも日照があると水温は上昇します）


※1：低温や強風等が予想される場合は、草丈の3/4の水深にします。

2 畑作物の栽培管理

(1) 秋まき小麦：粒重・タンパクの充実を図る時期です。

適正な分追肥により品質、収量の向上を目指しましょう。

【施肥窒素量】「ゆめちから」

止葉期  4～6kg/10a（硫安30kg/10a）※上位茎数が900本/m²を超える場合
2～3kg/10aに抑える

(2) 豆類：は種作業

地温10℃以上確保でき、降霜の恐れがなくなったらは種時期です。晩霜に注意し適期は種に努めましょう。

3 主要野菜の生育状況と技術対策

生育状況や草勢にあわせた追肥とかん水管理をしましょう。

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植 ・1段果房収穫中。6～7段開花。 ・品種により第1花房着果節位が低い。 ・萎凋病、かいよう病、カリ欠症状が一部で発生している。 4月定植 ・4～5段花房開花中。	・低段に着果した時は3果に摘果する。 ・葉の黄化、しおれ等が見られた場合はJA、普及センターに連絡する。
ハウス軟白ねぎ	・12月定植収穫中。 ・タマキバエ、ハモグリバエ類の発生が見られる。	・育苗期から防除を行い定植ハウスへ病害虫の持ち込みを防ぐ。 ・粘着板を設置し早期防除に努める。
ハウス立茎アスパラガス	・春芽収穫～立茎移行期。 ・ジュウシキビ、ナガハムシ、アブラムシが一部で発生している。	・ハウス内外の雑草（タネホ、白刈バなど）処理を徹底する。

4 畜産 飼料作物生育状況 (5月15日現在)

牧草 : 草丈 38.7cm (+3日)

飼料用とうもろこし : は種始 5月12日 (+3日)

(1) 草地

- ①堆肥等の施用時期は、サイレージへの混入を考慮し、5月中旬までとしましょう。
- ②ギシギシの発生状況により、除草剤防除ガイドを遵守して、全面処理または局所処理を行いましょ。

(2) 飼料用とうもろこし

ほ場条件や発生雑草などを把握し、土壌処理、雑草茎葉処理などの用途にあった除草剤を選定し、適切に使用しましょう。

(3) 家畜飼養

- ①サイレージの変敗に注意し、カビや不良発酵を起こしている部分を取り除いて給餌しましょう。
- ②放牧酪農では乳成分のMUN（乳中尿素態窒素）の数値を参考に、バランスのとれた飼料給与を行いましょ。
 （参考：適正範囲バルク乳10～14mg/dℓ、個体乳8～16mg/dℓ）
- ③春は牧草の生育が旺盛なので、放牧頭数に見合った利用面積としましょ。短草利用をして余剰草の発生量を最小限にしましょ。
- ④近年、5月に突発的な気温上昇がみられます。早い時期から換気扇等を積極的に利用し、暑熱ストレスに対応しましょ。また、牛舎内の換気を十分に行うことで湿度上昇を防ぎ、牛床の乾燥を促進しましょ。
- ⑤水槽や飼槽は清潔に保ち、乾物摂取量の向上や感染症の蔓延を防止しましょ。
- ⑥畜舎の出入口やパドックは排水を促し、火山灰の投入やスノコの利用等により、泥ねい化を防止しましょ。
- ⑦農場畜舎への外部から（人、物、車両）の出入りを制限し、畜舎の各入口には必ず踏み込み消毒槽を設置しましょ。
- ⑧畜舎内は清掃と石灰塗布を行うなど、衛生対策を徹底しましょ。